

9. 6 集会アピール

この国はいま、戦後70年の大きな岐れ路に立っています。戦争と平和の岐れ路、専制と民主主義の岐れ路です。

いわゆる安保法案が、いま、国会審議の最終局面を迎えています。

法案は、自衛隊を世界中に派遣し、武力を行使することを認め、あるいはその危険を冒そうとしています。

他国に対する武力攻撃に反撃するために、集団的自衛権を認めて、他国の戦争に参戦し、地球の裏側までも出かけて行こうとします。戦争をしている他国軍隊を世界中で支援し、あるいは自衛隊の武器使用を大きく拡大しようとしています。

それでも政府は、自衛隊が外国の領域で武力を行使することはない、例外はホルムズ海峡の機雷掃海しか「今は念頭にない」と繰り返します。武力を行使する他国軍隊に、戦闘現場でない場所なら弾薬までも提供する自衛隊の活動が、安全だ、自衛隊員のリスクは増大しないと言い張ります。

これまで50年以上、集団的自衛権の行使は憲法上許されないと、政府自ら言い続けてきた憲法解釈を一転して覆しながら、それでも論理的一貫性と法的安定性は保たれていると強弁します。

こんな国会答弁に、世論の7割以上が納得できないと言っています。圧倒的多数の憲法学者が、違憲だと指摘しています。それでも政府・与党は、世論に背を向け、衆議院で採決を強行しました。そして国会を大幅に延長し、いま参議院で、法案の成立を強引に図ろうとしています。

このような政権運営と国会審議は、国民主権と民主主義の憲法原理をないがしろにするものです。立憲主義を踏みにじるものです。

いま、法案に反対する声と運動が、全国に燃え広がっています。若者もお年寄りも、女性も男性も、数千人、数万人の人たちが、国会を取り囲み、全国各地の集会で訴えています。多くの国民、市民の必死の抵抗が、大きなうねりをつくり出しています。

いまこそ流れを変えるときです。この国の平和と民主主義と立憲主義のために、私たちに続く世代のために、みんなで止めよう！ 安保法案。

9. 6 かながわ緊急大集会 参加者一同